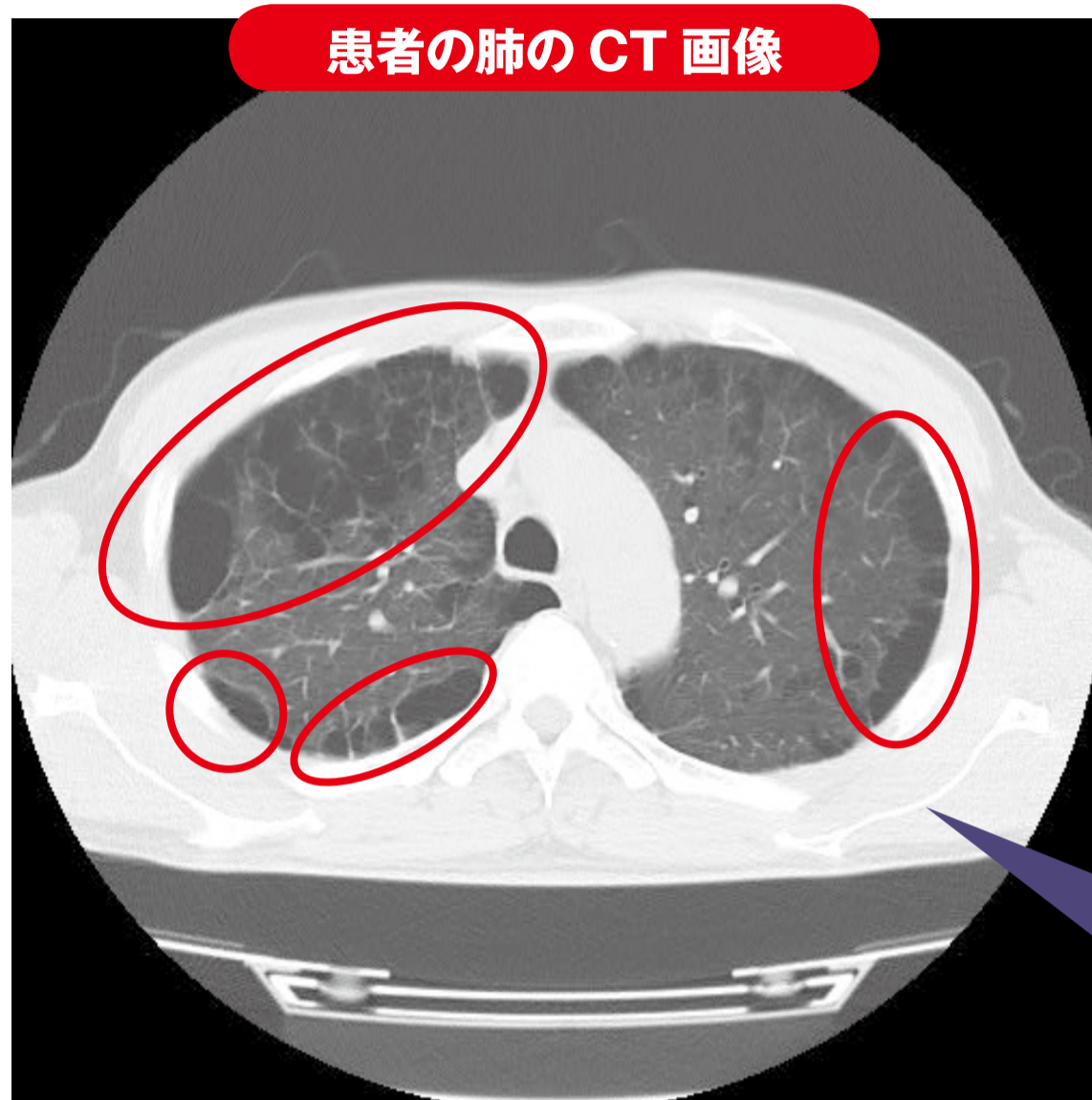


# 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)

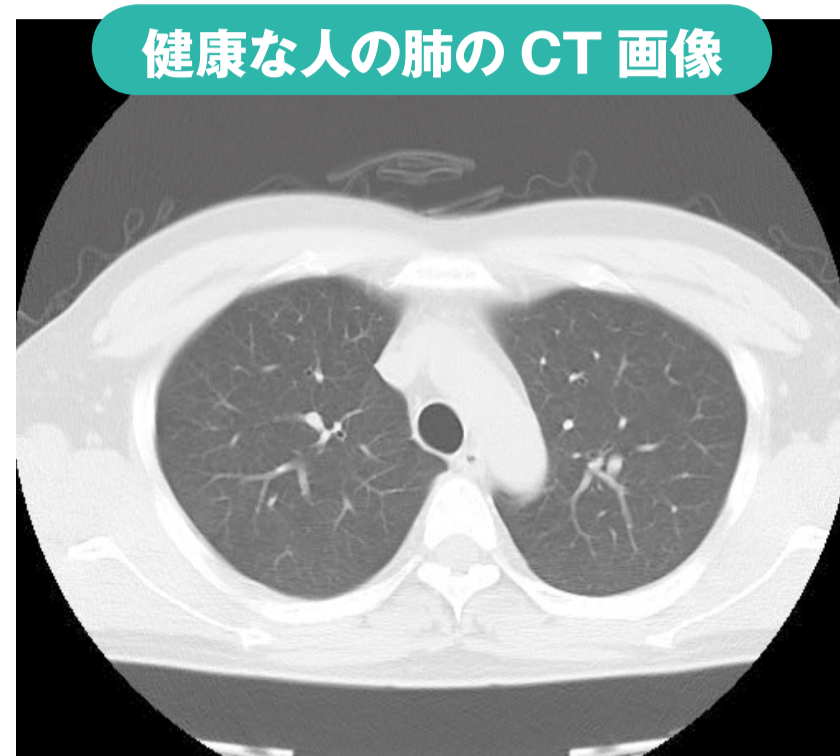
監修/写真提供: 横浜ながつた内科・呼吸器クリニック 院長 瀬戸武志先生

## 原因はタバコ!

タバコの煙などの有害物質によって肺や気管支に慢性的な炎症が起こる病気です。肺胞の破壊が見られる場合は**肺気腫**、気管支に炎症がある場合は**慢性気管支炎**といい、その総称を**慢性閉塞性肺疾患(COPD)**といいます。



患者の肺のCT画像



健康な人の肺のCT画像

肺胞が破壊されると、周りの健康な肺の部分と比べて黒っぽく見えるようになり、重症になるに従い、黒っぽい部分が増える。長期の受動喫煙(喫煙者の周囲の人が間接的にタバコの煙を吸い込むこと)でも起こる。

## こんな人は注意!

- 40歳以上でタバコを吸っている。または吸っていた。
- 咳、痰がしつこく続くことがある。
- 階段を上る時などに息苦しいことがある。



ひとつでも当てはまれば、内科・呼吸器内科などを受診し、検査を!

### 検査内容

- ・呼吸機能検査 (肺の肺活量や1秒間に吐きだせる息の量の測定)
- ・胸部CT検査 など

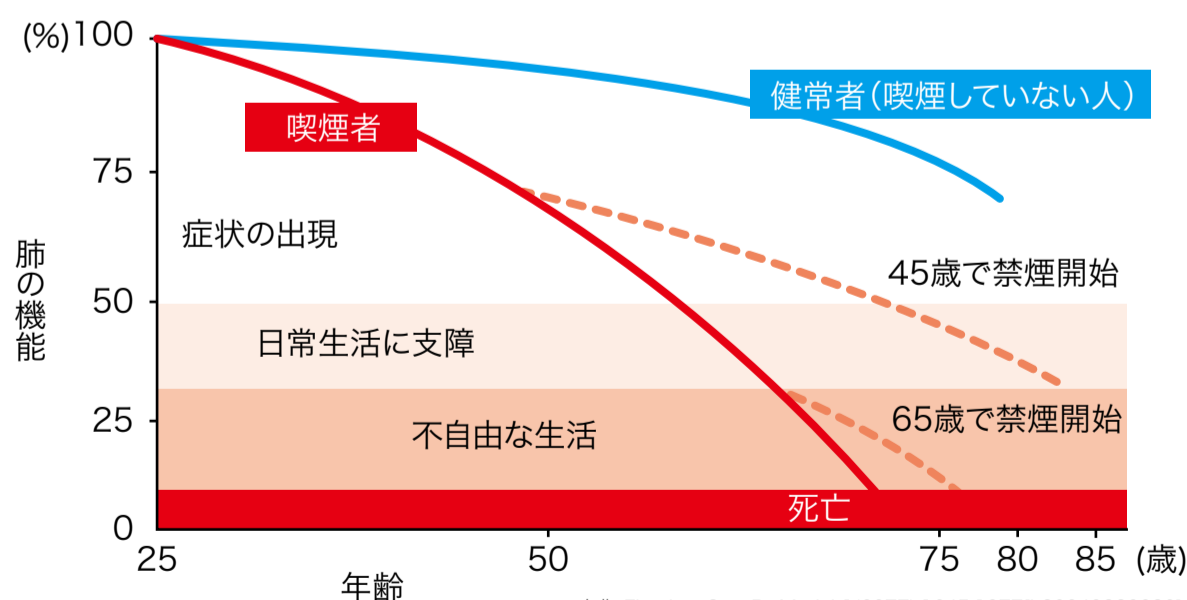
## 早めの禁煙と治療が重要

喫煙を続ける限り、症状が進行!

最善の対策は禁煙!

薬物療法で息切れを軽減させ、肺機能の維持を!

早めに禁煙を開始するほど、肺機能の低下が緩やかに



出典: Fletcher C.et.Br Med J 1(6077):1645,1977[L20040220020]より改変



## COPDは肺がん発症の独立した危険因子!

COPDは肺がん発症の独立した危険因子のひとつと考えられています。肺がんリスクが高いといわれる喫煙者の中でも、COPDを併発している人は肺がん発症率が約5倍も高いというデータもあります。そのため、禁煙した後もCOPDのある人は、定期的に肺の検査(胸部X線検査や胸部CT検査)を受けることが重要です。